

検討会の流れについて

○平成27年4月17日(金)第1回検討会

○平成27年6月19日(金)第2回検討会

- ・路面温度上昇抑制機能を有する舗装技術の効果検証計画

○平成27年7月15日～平成27年9月27日 データ取得

- ・国道246号及び関東技術事務所で観測

○平成28年7月19日(火)第3回検討会(本日)

- ・路面温度上昇抑制機能を有する舗装技術の効果確認
- ・取組みの方向性(骨子案)



○平成28年8月下旬 現地効果検証(予定)



○平成28年9月頃 第4回検討会(予定)

- ・取組みの方向性とりまとめ



対策の本格実施

■これまでの指摘事項

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 指摘事項 |
|--------|--|--|---|
| 舗装 | 走りやすさ | 眩しさ | 反射によるまぶしさを防ぐため舗装の色について配慮してほしい。 |
| | | 滑りやすさ | 石畳などだと雨天時に滑りやすい。 |
| | | 傾き | かまぼこ状の路面は片斜面を歩いているような感じになるのでできるだけフラットが望ましい。 |
| | | 硬さ | 路面が硬すぎると足への衝撃が大きくなる。 |
| | 性能 | 温度・反射熱 | 7時半にスタートしてもゴール時には33～34度となる場合、マラソンをするには危険。温度がなるべく下げられ、反射熱がこない道にしてほしい。 |
| | | 湿度等 | 高温多湿による熱射病を避けるため、WBGTの表示が必要。そのためにも、湿球温度、乾球温度、黒球温度を測ることが必要。 暑さ対策には打ち水が最も効果的（ただし中途半端は問題）。 中途半端なミストはかえってマイナスとなる。 |
| | | | 路面の濡れ |
| | | その他 | 施工時期 |
| | 情報提供 | 気象 | 天候の変化やゲリラ豪雨の情報を提供できないか。 自分の疲れを自身でコントロールできるよう、路面温度情報を表示するといった工夫が必要。 |
| | | | 選手位置情報 |
| 情報提供全般 | | どこにどういう情報提供をだすのか検討するのが大事。 ICTを積極的に活用し、スマホと連動させたい。 | |
| | | 道路空間利活用 | 暑さ対策 |
| 自転車 | 歩道を安全にするためにも、自転車が車道を安全に走行できる空間の整備が必要。 | | |
| その他 | サイネージを路上に置くための柔軟な対応が必要。 木陰やオープンカフェなどの設置、デジタルサイネージや広告などは、柔軟な対応が必要。 | | |

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 指摘事項 |
|--------|----------|--|---|
| 現地効果検証 | 検証の対象 | | 障害の種類やレベルによっても発汗量は変わる。 |
| | | | 高齢者や外国人の観客も念頭に入れる必要がある。 |
| | 時間帯 | | 実際に競技が行われる時間帯も考慮する必要がある。 |
| | | | 暑熱対策は一番厳しい時間帯を想定して行うのがよい。 |
| | | | 検証は昼の時間帯でよいのではないか。 |
| | 現地条件 | | 壁面等の沿道の状況により現象の起こり方が違うことに留意が必要。 |
| 計測 | | WBGTは、舗装から離れた場所でも差が出るのか、影の影響も考慮するとよい。 現地観測は適宜観測場所を増やして分析するなど、必要に応じて検討すべき。 | |
| その他 | 緑化 | | オリンピックを契機として、緑を増やしていく環境づくりが必要だということについて理解を深める取組みを進めていくことが望ましい。これにより、オリンピックのときだけではなく環境整備ができる。 |
| | | | 街路樹の樹形が大きくなると木陰ができて観客には非常に効果がある。 |
| | 実験の継続性 | | 実験の効果があるなら継続的に検証をして、いずれ技術を世界に輸出するとともに、日本国内でも広げてもらいたい。 |
| | コース・開始時間 | | マラソンコース・開始時間の決定には時間がかかる。 |
| | | | オリンピック・パラリンピックではクリーンベニューの問題がある。いずれにしてもコースや時間帯は交通規制等の関係から、議論を踏まえて考えていく。 折り返しのコースが採用されると、観客の待ち時間が長くなることに注意が必要。 |
| その他 | | 政府としては服装に関する情報発信や壁面をどうするかについて総合的に考える必要がある。 | |

黒字:第1回検討会 青字:第2回検討会